

全国足利氏

ゆかりの会について

●阿波公方について、改めておさらい

広報あなん5月号で紹介したとおり、10月27日(火)と28日(水)の二日間にわたり、第41回全国足利氏ゆかりの会総会が本市で開催されます。過去にも「広報あなん」で阿波公方について紹介してきましたが、今一度改めて紹介したいと思います。

阿波公方とは

阿波(徳島)に移り住んだ室町幕府足利将軍家のことです。ここでの「公方」とは「将軍」もしくは「将軍家」を意味します。

阿波公方は、室町時代後期から江戸時代後期まで約270年間、9代にわたって、那賀川町の平島に住んでいました。平島公方とも呼ばれます。

阿波公方のはじまり

応仁の乱後、足利将軍も、管領や大名たちの権力争いに翻弄され、混迷の渦中にありました。

こうした中、1534年に11代将軍足利義澄の子、義維が将軍継承争いに敗れ、平島(現那賀川町の南部地域)にやってきたことが阿波公方のはじまりです。

初代阿波公方足利義冬(義維)



義維は、阿波守護細川家に養育されており、また阿波で客死した10代将軍義植の養子でもありました。

義維は将軍後継者として、一時は細川晴元、三好元長(三好長慶の父)と共に堺公方府(堺政権)を樹立し、京都周辺を実効支配しました。しかし細川・三好の内部分裂がおこり、三好元長は自害、堺公方府は崩壊します。その後、義維は阿波守護細川氏之(持隆)の庇護のもと、那賀郡平島に移り住み、名を義冬と改めます。

阿南から将軍誕生!

14代将軍足利義栄

その後、平島で生まれた義冬の子、義栄は、三好氏に擁立され、摂津国富田(現大阪府高槻市)で14代室町幕府将軍となりました。しかし織田信長の上洛により、その在位はわずか7カ月で幕を閉じます。

一方、徳島では、義栄の弟、義助が義冬の跡を継ぎ、その後9代阿波公方義根まで代々平島館で暮らしました。

江戸時代の阿波公方

そして阿波退去

江戸時代の阿波公方家は、藩主との関係の難しさもあり、所領を減じられたり、苗字を足利から平島に変えさせられたりと受難が続きました。

そしてついに9代義根の代で、藩主である蜂須賀氏とのあつれきが最高値に達し、義根は阿南を去ることとなります。

しかし現在でも、阿波公方が暮らした阿南の土地にはそのゆかりの史跡・伝承などが多く残されています。

問い合わせ

文化振興課

☎22-11798